

(第3号様式)

学 位 論 文 要 旨

氏 名 川崎 由理

論 文 名 能動喫煙および受動喫煙と妊娠中うつ症状との関連：
九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータ

学位論文要旨

背景:喫煙及び受動喫煙の暴露と妊娠中うつ症状の有症率との関係に関する疫学的エビデンスには限界がある。日本における本横断的研究でこの問題を調査した。

方法: 2007年4月から2008年3月、日本南部の九州または沖縄県のいずれかに在住の九州沖縄母子保健コホート研究に参加した1757名の妊婦を対象とした。今回の調査では妊婦1745名を解析した。喫煙, 受動喫煙暴露, 抑うつ症状, および潜在的な絡因子に関する情報は、自記式質問紙を介して得た。うつ症状は、Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) の16点以上をうつ症状有りと定義した。年齢、妊娠週、居住地域、子数、家族構成、うつ既往、うつ家族歴、職業、家計の年収、教育歴を交絡因子として補正した。

結果: 妊娠中の抑うつ症状の有病率は19.2%であった。能動喫煙について、非喫煙群に比較して、過去に喫煙していた群では調整オッズ比1.39 (95%CI: 1.06-1.83)、現在喫煙群では調整オッズ比2.49 (95%CI: 1.36-2.02)であった。能動喫煙の累積曝露量との関連を調べたところ、非喫煙群に比較して、3.0- 7.9パッケ年の妊娠中うつ症状の有症率に対する調整オッズ比は1.55 (95% CI: 1.08-2.22)、8.0パッケ年以上の妊娠中うつ症状の有症率に対する調整オッズ比は1.97 (95% CI: 1.26 - 3.03)であった (P for trend=0.0005)。

非喫煙者である1183名を対象として受動喫煙との関連を調べた結果、家庭での非受動喫煙群に比較し、現在の家庭内受動喫煙有り群では妊娠中うつ症状の有症率と有意に関連が見られた 調整オッズ比1.51 (95% CI: 1.003 -2.30)。過去に家庭内受動喫煙有り群では関連がみられなかつ

氏名 川崎 由理

た。職場での非受動喫煙群に比較し、現在職場での受動喫煙有り群では妊娠中うつ症状の有症率が約1.8倍であったが、統計学的に有意ではなかった。過去に職場での受動喫煙有り群では関連がみられなかった。

結論:過去の喫煙、現在の能動喫煙、3.0以上のパック年及び家庭内受動喫煙は妊娠中うつ症状の有症率上昇と関連している可能性がある。

キーワード (3~5)	Depressive symptoms, Japanese, Pregnancy, Secondhand smoke, Smoking
-------------	---